

第 13 章 シェル関連コマンド

13.1 env

【機能】

環境変数の表示 / 設定 / 削除

【入力形式】

env (表示)
env <name>=<value> (設定)
env -u <name> (削除)

【オプション】

-u
環境変数を削除する場合に指定します。

【パラメタ】

<name>
環境変数名を指定します。

<value>
環境変数値を指定します。

【説明】

環境変数を表示、設定、または削除します。
環境変数名と環境変数値の説明を以下に示します。

- PROMPT
プロンプト文字列を指定します。
文字列に空白が含まれる場合は、ダブルクォーテーション (") で囲みます。また、プロンプト文字列中にバックスラッシュで始まる特殊文字を含めると、以下のように展開した文字列に置き換わります。

特殊文字	展開文字列
\!	履歴番号
\p	標準プロンプト
\u	環境変数USERの値 (ログオン前は無効)
\U	環境変数USERの値 (ログオン前も有効)
\\	バックスラッシュ (\) 1個

以下に、標準プロンプトを示します。

状 態	標準プロンプト
シリアルコンソール ログオン前	>
シリアルコンソール ログオン後	#
telnet ログオン後	#

ログオン前は履歴機能が無効なため、"\!"とそれに続く空白 1 つが無視されます。

環境変数 USER がいない場合は、"\u"および"\U"とそれに続く空白 1 つが無視されます。

以下に、設定例を示します。

```
env PROMPT="\! \u \p"
```

- COLUMNS

画面桁数を 10 進数値で指定します。1 以上を指定した場合に、設定が有効になります。

実際の画面の桁数と違う値を指定すると、コマンド入力時に表示やカーソル位置が乱れます。

また、telnet ログオン時に画面サイズを変更した場合、自動的にシェル内部の桁数が変更され、本環境変数値は無効となります。ただし、画面サイズ変更後に本環境変数を設定すると、本環境変数値が有効となります。

- LINES

画面行数を 10 進数値で指定します。1 以上を指定した場合に、設定が有効となります。

画面行数を 13 行以下にすると、コマンド入力時に表示やカーソル位置が乱れます。

また、telnet でログオンしていて画面サイズを変更した場合、自動的にシェル内部の桁数が変更され、本環境変数値が無効となります。ただし、画面サイズ変更後に本環境変数を設定すると、本環境変数値が有効となります。

- KANJI

漢字コードを指定します。コマンド引数補完時の引数説明が指定した漢字コードで表示されます。

環境変数値と漢字コードの対応を以下に示します。

環境変数値	漢字コード
SJIS	ShiftJIS
EUC	EUC
その他/なし	EUC

- USER

ユーザ名を文字列で指定します。環境変数 PROMPT の"\u"や"\U"で使われます。

- NOBELL

シェルは、以下の場合にベルを鳴らします。

- 最大文字数 (1022 文字) を超えて入力しようとした場合
- 最大文字数 (1022 文字) を超える貼付けを行った場合
- 補完候補がない場合

以下の値によってベルの動作を指定できます。

環境変数値	動 作
yes	鳴らさない
on	鳴らさない
その他/なし	鳴らす

- HISTSIZE

履歴行数を 0～100 の 10 進数値で指定します。100 以上を指定しても、100 を指定したものとみなされます。0 を指定すると、履歴を残しません。

行数を変更した場合、履歴番号や履歴内容は引き継がれますが、0 から増やした場合には履歴番号が 1 からになります。

削除したり無効な値を指定すると、前の履歴行数のままとなります。

- SAVEENV

環境変数は、“11.1.3 save” で構成定義情報と共に保存できます。環境変数 SAVEENV では、save コマンドで環境変数も保存するかどうかを指定します。

環境変数値	動 作
no	保存しない
off	保存しない
その他/なし	保存する

[注意]

環境変数を保存する場合、上記以外の環境変数はできるだけ設定しないでください。

PROMPT に空となるような文字列を指定すると、プロンプトが表示されず、入力できない状態のように見えますが、入力してコマンド実行することができます。

[未設定時]

以下に示すように環境変数が設定されているものとみなされます。

```
env PROMPT="\u\p"
env COLUMNS=80
env LINES=24
env KANJI=EUC
env -u USER
env NOBELL=no
env HISTSIZE=24
env SAVEENV=yes
```

13.2 history

【機能】

コマンド履歴の表示 / 消去

【入力形式】

history (表示)
history -c (消去)

【オプション】

-c

- 履歴削除
履歴を消去する場合に指定します。

【パラメタ】

なし

【説明】

コマンド履歴を表示または削除します。

履歴を表示すると、履歴番号と履歴内容が一覧表示されます。履歴を編集集中で実行していない行には、履歴番号の後に "*" が表示されます。 "*" が表示されている場合は、以下のいずれかの方法で "*" を消すことができます。

- Ctrl+P キーまたは ↑ キーでその行を表示し、改行キーを押してコマンドを実行する。
- Ctrl+P キーまたは ↑ キーでその行を表示し、Ctrl+C を押して入力内容を破棄する。
- Ctrl+P キーまたは ↑ キーでその行を表示し、Ctrl+U を押して空行にして他の履歴に移動する。

履歴を消去すると、履歴番号は 1 からふり直されます。

履歴行数は、環境変数 HISTSIZE で変更できます。環境変数については、env を参照してください。

【注意】

履歴番号が 32767 を超えると、適当な小さい履歴番号にふり直されます。